

大分市立東大分小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	自ら学ぶ意欲と考えをもち、心豊かでたくましく生きるこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	授業の工夫改善により、主体的に学び高め合うこどもの育成

	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 県学力定着状況調査(5年)、全国学力・学習状況調査(6年)において、全ての教科・観点で県平均、全国平均を上回っている。問題形式では、「選択式」「短答式」に比べ「記述式」が低い結果となっている。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 県や全国平均を上回っているものの、個別に見れば基礎・基本の定着が不十分な児童が各学年一定数見られる。また、各教科とも「要約して書く」「読み取ったことを説明する」「必要な情報を抽出し結び付け考察したことを表現する」ことに課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・「自分の考えを書けた」(90.5%)「自分の考えを発表できた」(81.4%) ・「授業の内容が分かっている」(1年90.6% 2年89.8% 3年86% 4年92.7% 5年91.5% 6年95.8% 全体91.4%) ・「宿題をしている」(1年96.9% 2年91.7% 3年88% 4年92.7% 5年93.2% 6年91.7% 全体92.5%)	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「生徒指導の3機能を意識し、考えを伝え合い認め合う授業に取り組むことができた」(100%) ・「学習の手立て(発問・ICT機器の活用・具体物・教室掲示等)を活用し、主体的な学びのある授業を実施できた」(94.2%) ・「家庭学習の内容を工夫(授業との連動・反復練習)することができた。」(94.1%) 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・「おおいっ子」の加配により、3・5年算数を少人数で実施。 ・「テストの受け方」「見直しの仕方」「わたチェック」を作成し、全学年で統一して取り組んだ。 ・「言葉の宝箱の一覧表」「つなぎ言葉の一覧表」を利用し、語彙量を増やす取組の継続。 ・振り返りの視点の活用(低学年用・高学年用) ・教科担任制や交換授業の取組。 1年道徳(担任3人がローテーションする) 3年国語⇄算数、音楽⇄体育、外国語⇄道徳 5年音楽⇄体育、外国語⇄社会 4年国語⇄算数、道徳⇄外国語、音楽⇄体育 6年図工・音楽⇄書写・外国語⇄体育・社会(担任3人が入れ替わる) 4・5年算数(少人数) 5・6年理科・家庭科(専科)	



学力に関する達成指標
国語・算数の単元末テストが8割以上に達した児童が82%以上



	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) 見通しをもって自ら学び続けるこどもが育つ教材と学習展開の構想。 (授業改善の重点) 課題を探究していく中で、自己調整学習による学びや、友だちに自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする協働的な学びができる学習展開を授業に取り入れる。	
	〈取組内容〉 ・自己調整学習を取り入れた学びの設定。 ・友だちに自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする協働的な学びができる時間の確保。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習の充実。 ・授業参観、オープンスクール等、積極的に参加する。
	〈取組指標〉 ・日常授業で「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置付ける。 ・日常授業で自己調整学習や自分の考えを伝えたり聞いたりする場を設定する。 ・学期に1回「東大分小学習のきまり(教師用)」をもとに授業ができているかセルフチェックを行う。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・毎日、児童の家庭学習について目を通す。
	〈検証指標〉 ・児童アンケートで「授業が分かる」と答えた児童95%以上。 ・「自分の考えをもつことができた」と答えた児童92%以上。 ・家庭学習の習慣化を図り、提出率を100%にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 ・保護者アンケートで「宿題をするように声をかけている」と回答する保護者90%以上。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・全教職員参加によるプランの取組の共通理解及び取組の徹底。 ・習熟度に応じた補充学習。 ・家庭学習の見直しとICT機器の活用を視野に入れた家庭との連携。 ・各学年ごとに学力定着状況の分析(年2回)と今後の取組の策定。	